

今後の検討項目

0 研究の趣旨

生活者に身近な地方の視点から、人々が将来に希望を持ち、安心して暮らすことができる社会を再構築し、わが国の再生につなげるため、「この国のあり方」そのものについて検討を深め、政府や国民一般に広く議論を喚起する。

1 わが国に漂う不安感、閉塞感

少子高齢化、人口減少およびグローバル化とあいまって、わが国に漂っている不安感や閉塞感の背景となっている課題等について分析。

- 1) 経済面：産業構造の転換への対応 労働市場の二極化 等
- 2) 生活面：所得の確保と自立への不安 セーフティネットの機能不全 絆の崩壊 等
- 3) 政治面：不信感 不公平感 閉塞感 等

2 福祉政策と雇用政策の国際比較から見たわが国の特徴と方向性

全国知事会自主調査報告書に基づき、福祉政策、雇用政策の国際比較から見たわが国の特徴と方向性を検討

- 1) 福祉政策からのアプローチ
- 2) 雇用政策からのアプローチ
- 3) わが国の特徴と今後の方向性

3 わが国の目指すべき社会の方向性

- 1) 基本的な考え方
 - ア あらゆる場面で社会に参画できる社会
 - イ 支えあいと信頼の社会
- 2) 目指すべき社会像
 - ① 生き生きと働ける社会
 - ② 生涯を通じて不安のない社会
 - ③ 家族と地域の絆が育まれている社会

4 「この国のあり方」の実現に向けて

- 1) 政策の方向性
 - ① 生き生きと働ける社会
 - ② 生涯を通じて不安のない社会
 - ③ 家族と地域の絆が育まれている社会
- 2) 政府の方向性
 - ① 大きさから見た政府のあり方
 - ② サービス供給から見た政府のあり方
 - ③ 財政から見た政府のあり方
 - ④ 信頼性から見た政府のあり方

研究成果を反映

具体的な制度設計にかかる議論

全国知事会の「道州制特別委員会」、「地方分権推進特別委員会」等の各委員会で議論